

第 8 回 大阪・構造物非破壊診断交流会 (ONDA) 議事録

日 時：平成20年4月22日(火) 15:00~17:00

場 所：大阪大学中之島センター 9F 会議室1

出席者：鎌田会長，葛目幹事，永山幹事，森幹事，内田，藤原，吉田，松沢(記録)

以上8名(順不同，敬称略)

- 配布資料：8-0 第8回 大阪・構造物非破壊診断交流会 (ONDA) 議事次第
 8-1 第7回 大阪・構造物非破壊診断交流会 (ONDA) 議事録(案)
 8-2 季刊管路更生 2008.4 No.6 p27~34 (阪大)
 8-3 PC管本体の劣化に関する調査・診断マニュアル(案)(阪大)
 8-4 ONDA 共通計測(弾性波伝播速度)に関する素案(内田)
 8-6 切りだし床版を用いた調査(KSE)

議 事：

1. 第8回議事次第

内田会員より，本日の交流会の話題と進め方について説明があった。

2. 会長挨拶

開催の挨拶を鎌田会長が行った。

3. 第7回議事録(案)の確認

藤原会員より説明があり，内容確認が行われ承諾された。

4. HPの現状について

内田会員よりHPの現状について，(1)現在来訪者数は把握できていない，(2)検索上位になってきてはいるものの最上位ではない，(3)検索順を上げ下げする要素には，リンクされている数の多さが挙げられる，といった情報提供があった。

これに対しカウンタを設置してはどうかという意見があり，設置を検討することとなった。

5. 話題提供

(1) 鎌田会長より，更生管施工時の品質管理を，ロボット+衝撃弾性波/超音波法で行った実験結果報告についての説明があった。(配布資料8-2)また，更生工法のビデオ紹介が行われた。

- 樹脂管を挿入後に熱または光を利用して硬化させ既設管と一体化させる単独管工法，内挿管と既設管の間にグラウト充填を行って一体化させる複合管工法のいずれにおいても，衝撃弾性波の伝播強度や打撃反力に着目することで，品質管理が可能であった。
- 報告に対し大きな反響があったものの，施工法ごとの優劣づけを望まないなどのネガティブ面もあると感じられたとのことであった。

(2) 鎌田会長より，内圧のかかるPC水管の破裂を防止するための劣化調査・診断のマニュアル化についての情報提供があった。(配布資料8-3)

雨水管の調査においては外的な劣化要因が支配的だったという経験談のほか，マニュアル中に

示される非破壊試験は技術的なハードルが高そうだ、といった議論が行われた。

- (3) 内田会員より、ONDA で共通計測を行う方向性について、波のモード、センサ・打撃具の違い、配置方法、観察方法、などについて比較してみてもどうかと提案があった。(配布資料 8-4)

これに対し、共同計測成果については ONDA 会として学会等に発表できるものがよく、たとえば次回の JCI 発表などを見据え、それまでに具体的な成果が得られるような内容とするのが良いのでは、といった意見があった。また、実際の調査事例では部材の片面からの探触しかできないことが多く、超音波法や衝撃弾性波法で反射法の実践についてニーズが高いため、それを第一歩として取り組んでほしい意見があった。さらに、汎用的な供試体を設計する前に、GBRC 神戸試験室に置いてある試験体が直ぐにでも利用できるのも、活用していただきたい意見もあった。これらの意見を踏まえて、共通計測については再検討することとなった。

- (4) 藤原会員より、RC 床版の劣化メカニズムの推定結果、および実証のための実験案についての説明があった。(配布資料 8-5)

微小ひび割れを視認しやすくするための試験剤があること、塩分浸透があれば GBRC の EPMA ではっきり確認できるであろうこと、などの議論が交わされた。また吉田会員より、微細貫通ひび割れを原因とする塩分浸透を実証するためには、観察断面は床版厚さ方向ではなく、ひび割れと直交する床版断面方向にとった方がよいとの提案がなされた。

6. 次回の予定

第9回交流会：平成20年6月25日（水）15：00～17：00

場所：株式会社国際建設技術研究所 本社

以上

(記録：松沢)